

ニッポン ドクター和の 臨終図巻



〈私の名は喪黒福造。人呼んで笑わせるすまん。ただのセールスマンじゃございませぬ。私の取り扱う商品は心、人間の心でございます。この世は老いも若きも、男も女も、心の寂しい人ばかり。そんな皆さんの心の隙間をお埋めします。ホーッホッホッ……〉

ブラックユーモア満載の『笑わせるすまん』。このセリフが大好きでした。そのほか『忍者ハットリくん』『怪物くん』など多くの傑作を世に出した国民的漫画家の藤子不二雄Aさんが4月7日、川崎市内の御自宅で亡くなりました。享年88。死因はこの原稿を書いている時点(10日)では発表されていません。今回、藤子さんの死亡を発表したのは、警察でした。神奈川県

250 漫画家 藤子不二雄A

長尾和宏(ながお・かずひろ) 医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

かかりつけ医がいる場合は、すぐに電話をし、死亡診断書を書いてもらいます。臨終の場に医師がいなくても、生前に診察していた病気で死亡となった場合は、それが可能です。

しかし、かかりつけ医がいなかった場合は警察に連絡をするしかありません。救急車を呼んでも遺体は運んでくれないので、結局警察を呼ぶことになります。警察では、死亡診断書ではなく死体検案書を発行しますが、まず事件性の有無を調べるため検視を行わねばなりません。発見者や関係者に事情聴取を行う場合もあります。また、発見が遅れば、「異状死体」とみなされて、死体解剖となるでしょう。このあたりのことは、『男の孤独死』という僕の著書で詳しく述べています。

ですから、自宅で穏やかな最

ゴルフコンペは叶わぬ夢に

県警によると、7日の朝に「藤子さんの自宅の庭で男性が倒れている」という通報があり、多摩署の署員がかけてつくと、既に藤子さんは亡くなられていたとのこと。

自宅で死亡した場合、かかりつけ医がいるかないかで、その後の手続きは変わります。

期を望むのであれば、かかりつけ医の存在は必須。元氣なうちから探しておくことをお勧めします。万一の時は、自宅で看取ってくださいかと訊いてみるのもいいでしょう。

藤子さんは、死の1週間前には親戚の方と自宅で米寿のお祝いをされたそう、好物の料理を喜んで食べたとのこと。また、『プロゴルファー猿』の作者でもあるだけに、「ゴルフに優る健康管理はない」と豪語するほどで、3月中旬にもゴルフを楽しみ、今月25日にはコンペに参加する予定だったとか。

もしかしたら、春爛漫(らんまん)の自宅の庭で、スイングの練習などをしている最中の旅立ちだったのかもしれないね。

